

科目区分：人文・社会科学科目

授業科目名	人間と文化（哲学のススム）				学期	曜日	校時
英語名	Humanity and Culture (Elementary Philosophy)						
担当 教員名	永嶋 哲也	単位数	2 単位	必修 選択	選択	後期 水曜日	3 校時
授 業 の ね ら い ・ 内 容 ・ 方 法							
<p>哲学は普通「何の役にも立たない学問だ」と言われている。確かに、何か別のものへの実用的な応用がないという点では「役に立たない」という言い方は正しいと思う。しかし哲学的な思考態度は、哲学自体が何の応用もないだけに、逆にあらゆるものの役に立つとも言える。この講義は、そのような哲学的思考態度（正しく理解し、自分自身で考えること）を身につけることを目指す「哲学入門」である。</p>							
テ キ ス ト 、 教 材 等							
<p>教科書は特に指定はしない。必要であればプリント等の資料を適宜用意する。 参考文献は講義中紹介する。</p>							
対象学生	成績評価の方法				教員研究室		
全学部	<p>平常点、および学期末試験・・・学期中に数回、授業中に授業内容に関する感想・意見などを書いてもらう。その内容でもって講義に対する積極性という平常点を判断する。学期末試験は記述形式で二問。一つは授業内容の要約で、もう一つは自らの意見を展開してもらう。</p>						
授 業 計 画							
<p>例えば「在る」とか「知る」「正しい」「こころ」などの言葉の意味とはどういうものだろうか？ 言い換えれば、そういうもの／ことというのは、日常にありふれていて、なにげなくて使っているけれども、いざ「それは何？」「どういうもの／こと？」と訊ねられるとその答えに困ってしまう。そういう身近だけれども考えてみれば謎な事柄こそ、哲学の主要問題・中心問題になるのだと思う。だからこの講義では哲学入門のために、誰かの思想や名言ではなくて、事柄中心に、つまり上で書いたような主要問題を中心に取り上げる。</p> <p>今年度は、つぎのようなテーマを取り上げる予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・存在 「ある」とはどういう意味か？ ・こころ われわれがこころを持つとはどういうことか？ ・行為 何かを「為す」といとはどういうことか？ ・自由 われわれは自由に何かを為しているのか？ <p>各テーマについて、なぜその問題が問われるのか、どのような仕方で問われるのかを説明し、そしてその問題に対して様々な人たちがどのような解決案を提出したかを紹介したい。それに対して受講生の諸君がどのように考えるか、授業中のレポートという形で書いてもらおうと考えている。</p> <p>授業スケジュール：</p> <ul style="list-style-type: none"> 01 回目 インTRODクシヨン（概論） 02 回目 （つづき） 03 回目 存在 「在る」のさまざまな意味 04 回目 時間空間の中に「ある・ない」 05 回目 こころ こころは「ある」と言えるのか？ 06 回目 こころと身体の関係について 07 回目 「こころは脳である」とはどういう意味か？ 08 回目 機械は心を持てるのか？ 09 回目 行為 行為と単なる動作・振舞いの違い 10 回目 行為の分類 11 回目 行為と人格、選択意志 12 回目 他者の意志、他者の行為 13 回目 自由 自由意志と決定論 14 回目 因果連鎖と自由選択 15 回目 試験 <p>オフィスアワー（質問受付時間）：非常勤講師室にて来校時にはいつでも対応する。</p>							